

おおぎ会 歩こう東海道 57 次

“お江戸日本橋へ”

第 27 回

平成 26 年 4 月 4 日から 6 日

夜半の雨は明け方には止んだ。この雨で、今年の桜も大方散るだろう？ ドラマ“八重の桜”を見て、今年の、花見は打ち上げか？ 旅は 遠方で長丁場となる、今回も三日がかりで挑む、どうか、天気にしておくれ・・・神様・仏様 お願いします。雨雲を追って、東に向かうから！

おおぎ会東海道27
26.04.05 大磯宿
旧吉田茂邸



この企画の誕生には 僕は立ち会っていないが、以後 継続され、27 回目となる。プロジェクトが、多年に亘る為、旅人の体力は、限界に近い。早く“お江戸日本橋”にと心は急ぐ。

東海道は 1601(慶長 6)年、徳川幕府が、江戸から京都間に 53 の宿駅を整備させた。京・大阪間には、京街道 即ち 豊臣秀吉が、整備を行った「文禄堤」があり、未だ 豊臣家は、健在故に、遠慮したのか、東海道を大坂迄とは言えなかった様だ。1615 年、大坂城が落城すると、大坂(高麗橋?)まで延長、途中 伏見・淀・枚方・守口の 4 つの宿駅を設け、東海道 57 次となり、現在に至る。

旅 人	A	細田 庄一
	B	藤井 博伸
	C	木本 信男
	D	中山 博夫
	F (記録)	足立 義明

(1 日目) 4 月 4 日 (金) 曇り一時曇

三枚橋→板橋の地蔵尊→小田原城→小田原宿(9)→酒匂宿→県営住宅前

距離 9.10km (今日の歩行距離 21400 歩*65cm=13.91km)

AM6:25 “イツメン” が揃い、枚方を出発、いつもの道を、ひた走る。今日は平日、大した渋滞にも遭わず 美合 PA でトイレ休憩、その間に 宿の手配。安宿だが、珍しく連泊が可能となり、一安心・・・三ヶ日 JCT より新東名を経て、一気に御殿場まで走る。前の欠席者の為に、雰囲気、味わって貰うべく、箱根路に回る。そして小田原へ！ ホテルに車を預け、急ぐので、昼食は松屋の牛丼 ちょっと寂しいが、早いのと安さに魅力を感じる。食後 小田原駅より箱根登山電車で、箱根湯本へ！ びっくりした 車中は 殆ど外国人… 驚いた！ 何で！

御発ち三枚橋

14:00 R1(国道 1 号線)と旧東海道の交差点、「三枚橋」より、歩きの旅となる。街道は 右手に早川の流れ、左手には、箱根登山鉄道に、挟まれた道を、ゆったりと下って行く。途中 陸橋の

向こうの脇道への、進入位置を見失ったらしい。更に行くと、又脇道、今回は間違わなかった。前方に、入生田の駅を見つけ、踏切を渡る。この辺は3本レール(写真)?何のために?道中私見に花が咲く!結論はお預け?(後で調べたら三線軌条と言い、珍しい方式) やがて右手に「招太寺」どうも仏閣は、山頂にあるらしい。花見の客が詰め掛けていたが、時間の関係で省略。



おおぎ会東海道27
26.04.04 小田原
入生田3本レール

板橋の地藏尊

道は 静かな集落の間を下って行く。この辺が「風祭」で蒲鉾が有名な(こんな山の中で?)箱根病院前を過ぎ、先方に、小田原厚木道路が見えてきた。間もなく21番目の「一里塚跡」があるとの事だが、見つけられずに通りすぎたらしい。右手に「日蓮ゆかりの霊跡」を見ながら、踏切を渡り、R1に合流する。

車と一緒に進み、先方の3差路を、左の旧道に、箱根登山鉄道の陸橋を過ぎる頃、突風に見舞われる。細田君が、何処かに飛んで行っちゃった! この辺が「板橋」。まだ下り道が続いている。古い建物が残る、静かな道を進むと、左側に大きな銀杏の木、ここが“板橋のお地藏さん”で有名な「板橋地藏尊」(写真)で、しばし 休息する。創業100年の「下田豆腐店」を初め、道沿いには、趣のある、旧家や商店が並び、昔の面影が残っている。やがて 新幹線のガードをくぐり R1と合流すると、小田原の街 前方に「居神神社」の塀が見える。角に「板橋見附跡」と示された案内板を見る頃には、曇(シズレ)が降ってきた。此処からが「小田宿」だ。



おおぎ会東海道27
26.04.04 小田原
板橋の地藏尊

小田原宿(9)

やっと 宿駅番号が一桁、ここ「小田原宿」は東海道最大の宿場で、本陣4軒・脇本陣4軒・問屋場2軒・旅籠は95軒と大規模だった。筆頭本陣の「清水本陣」には、明治天皇が宿泊され、脇に「明治天皇宮ノ前行在所跡」の碑があり、現在も「古清水旅館」として営業している。



明治に入り、鉄道が 御殿場回りとなり、一時衰退し、更に関東大震災で、大きな被害を受ける。丹那トンネルが開通し、東海道線を通じ、やっと賑わいが戻ってきましたが、昭和15年8月15日に、小田原大空襲を受け、一面焼け野原となったようです。当時の記録が、被災した「古清水旅館」

に残っています。戦後は 新幹線の開通で、箱根観光の基地として賑わっています。

小田原城

15世紀中頃、大森氏が築いた山城が前身で、その後 小田原北条氏の居城となり、関東支配の拠点として、拡張・整備されました。秀吉の 小田原攻めに備え、築造された総構は、城下町を囲み、延長9kmとなり、最大規模に達しました。北条氏滅亡後、家康の家臣、大久保氏が、城主となり、改修されますが、元禄16年に発生した地震により、天守を始め、城内の各施設は、殆ど破壊され、その後 再建は されましたが、明治3年に廃城となり城跡は、地元払い下げられました。戦後 図面を参考に、鉄筋コンクリートの天守閣が、昭和35年に復元され、現在に至っています。



おおぎ会東海道26
25.10.13小田原城

小田原宿なりわい交流館

R1 沿いの、「大久寺」(大久保一族の墓所)を過ぎ、JR・箱根登山鉄道のガードをくぐり、消防署前の陸橋足元に「人馬鉄道小田原駅跡」(写真左)碑を見ながら先に進む。

箱根口の交差点、小田原城の天守閣は、左手にあるはず、沿道の建物が邪魔しで見えず。代わりに先方、お城の様な「ういろ博物館」(写真中)に出会う。“ういろ”は名古屋名物では? 疑問に感じる。当地の“ういろ”は売菓の店、今はお菓子も売っているそうだ。“ういろ”とは、当主の苗字「外郎」から来たらしい。



御幸の浜交差点で「小田原なりわい交流館」が目につく。この建物は、旅籠「住吉屋」を改修し、接待所となっている。私達も、茶の接待を受け、しばし休憩。外は 暖簾が飛ばされる程、風が強くなってきた。でも私たちは、東に向かって進むのだ。

新宿交差点で R1 にもどり、浜町を過ぎると「江戸口見附」と「一里塚跡」(写真右)があり、宿場の外れとなる。「江戸口見附」は、小田原城攻めに対し、築かれた城総構の最東端でもある。

R1 を 多くの車と少ない旅人が、東に向かって進む。やがて右手に「宗福寺」・「山王神社」(山王神社はかつては海辺に立っていたが、高波により崩壊し慶長 18 年に当地に移された) 道は一本道、山王川を渡り、車と一緒に、単調な旅が続く。

さかわしゆく 酒匂宿 (間の宿)

陽が長いとは言え、少しずつ 暮色に染まってきた。常弔寺入り口の 3 差路を右に進み、更に小道を奥に進むと、児童公園の様な場所に出会う。ここに「新田義貞の首塚」がひっそりと祭ってある。すぐに踵を返し、城東高校前で R1 を、東に向かい「酒匂川」を渡る。当時の酒匂川の川渡しは、もう少し上流で、行われていた様だ。

当時は増水により中断する事が多く、又宿駅間が長いのは、不便で、必然的に、間の宿「酒匂宿」として休憩所が構えられ、多くの商店が軒を連ね、栄えたらしい。

左手に 日蓮が立ち寄った「法船寺」があり、「松屋本陣」(宿場でもないのに本陣?) は、参勤交代の諸大名や宮家等の、特権階級の人々が、多く利用したらしい。今は、「ゆりかご園」となり、立派な黒塀と門構え、更に奥の玄関が「松屋本陣の跡」として残されている。県営住宅入口の交差点で、時は 17:20 夕暮が迫ってきた。今日はこれまで!

お着き 県営住宅入口

最寄りの駅は JR 鴨宮・・・歩くしか方法がない、地図を、持ち合わせていないので、その方向に向かって歩く。これが結構きつい。

鴨宮より JR で小田原へ! 駅近くの「ホテル伊勢」に着く、小休憩の後 食事に出る。結構 駅前には賑やかだ! 宵の口だけかも! すし屋でサラリーマン用の「ビール付き夕飯セット」(1400 円)を見つける、ビールで乾杯し、今日の無事を感謝しながら、腹を満たす。早々に、古びたホテルに戻り、旅の疲れを癒やす。ホテルの設備は値段相応か? 贅沢も言えない!



(2日目) 4月5日(土) 曇り

県営住宅入口 → 吉田茂の旧邸 → 嶋立庵 →

大磯宿(8) → 平塚宿(7) → 江戸見付跡

距離 16.400km (今日の歩行距離 33416歩*65cm=21.72km)

起床は早かったが、素泊まり故、吉野家へ朝食を食べに！ トイレを済ませ、ホテルを出立 時は8:00 JRで鴨宮へ・・・先日の続きに向かう。今度は 住宅地の中をうまくすり抜ける。この辺は富士見・・・お山を探し、天候の回復を祈願するが、雲に隠れて顔は見えない。

御発ち 県営住宅入口

8:45 R1を歩き始める。今日は、暑い、雨は無いとの事？やがて 松並木(写真左)が見えてきた。「小八幡一里塚」バス停はあるが、塚跡は見つからない。「親木橋」を渡り国府津の街中を進む。きつくは無い「車坂」を登ると、右手に「袖ヶ浦」の海岸が見える。途中に、公衆便所が見当たらず苦労する。「押切川」を渡り、右の狭い登り坂へ、これが「押切坂」 途中「松屋本陣の跡」の標識を見つけたが、ここが宿場とは記されていない。更に進むと R1との交差点に「旧



東海道の名残り」と「押切坂一里塚跡」(写真中)の碑がある。

R1を進み「山西交差点」より 左街道に入り、途中「等覺院」更に、創業天保13年の「ヤマニ醤油」の大きな釜が見える。R1に戻り、二宮駅前「ガラスのうさぎ像」(写真右 ノンクション作家、高木敏子さんが、昭和20年8月5日、此处で 機銃掃射により父を失い、気丈にも生き、戦争の悲惨さを訴えた) 後世に語り伝える為、町民が建立した。

11:10「大磯町」に入る。途中買ったパンをおやつにし、空腹を宥めながら歩く。「国府新宿交差点」を過ぎると、松並木だ。その中に「国府津の標識」と「国府津一里塚」(写真右 実際には200m程江戸寄り?)を見つける。この辺は、平安時代に相模国府が置かれ、栄えたらしい。松並木に、挟まれた旧道を進む。



右手には、有名な「大磯ロングビーチ」 今は、建物に遮られ見えない。「本郷橋」を渡ると先方に大きな森が見えてきた。「県立大磯城山公園」である

吉田茂の旧邸



「県立大磯城山(ジョウヤマ)公園」は、左山上が「旧三井別邸」・右下が「旧吉田茂邸」と広大な敷地を擁し、一般に解放されている。公園前の交差点右沿いに、吉田邸の入り口で、全体は整備中。新装なった檜皮葺きの「兜門」(写真 講和条約締結を記念して立てられた門、別名を講和条約門)を入ると、立派な庭園が見える。築山の 相模湾のぞーと先 アメリカに向って立

つ 吉田茂像は、威風堂々としている。私達も同じように、立っては見たが（写真表紙）、何を考えれば良いのかな？



R1に戻る、小磯の街を抜け、右手に使われていない、大きな建物が現れた。初代内閣総理大臣、伊藤博文が邸宅を構えた処であるとの「伊藤公滄浪閣之蹟」の碑（写真）が脇にあり、見学は出来ない。近辺には「島崎藤村の旧邸」もある。松並木を挟んで、右の道が旧道らしい。松並木を見ながら進むと、蕎麦屋があり、匂いに釣られて、いつしか店内に！蕎麦はうまいが時間がかかる？

鳴立庵

満腹とは言えないが、一応安心。松並木の中に「上方見附跡」の説明文を見落とし、先に進むも後で気付く。大磯中学校前で 又 R1 に合流する。右手先の、こんもりした森が見えてきた。西行法師ゆかりの「鳴立庵」（写真）である。京都の落柿舎・近江の無名庵と並ぶ有名な俳諧道場らしい。西行は



「ころなき 身にもあわれは 知られけり 鳴立つ澤の秋の夕暮」と詠み、弟子の崇雪がここに庵を結んだ。「湘南海岸発祥の地」の碑を見ながら、東に進む。

大磯宿(8)



「大磯宿」は、「上方見付跡」辺りより、本陣3軒（小島・尾上・石井）・脇本陣0軒・問屋場2軒・旅籠66軒が「三沢橋」の先まで続いている、中程度の宿場である。

大磯は鎌倉時代から栄え、江戸時代には度々、火災に遭い、明治に、宿駅制度廃止により、寂れていたが、風光明媚なその景勝に、多くの有名人が居を構え、“洞庭湖の湘南に似ている”との事で「湘南発祥の地」と呼ばれ、現在に至っている。

「小島本陣」は現在そば処「古伊勢屋」となり、店の前には

案内板と碑が建っている。

R1は大きく左にカーブする。その内側に、和菓子で有名な「新杵」・斜め前に「海水浴発祥の地」続



いて、冒頭で示した、裏が、逗留した百足屋旅館の玄関に「新島襄終焉の地」（写真左 ここには、八重の桜は無い）の碑が残っている。

「尾上本陣跡」の碑は、正面に「大磯小学校発祥の地」（写真右）と記され、うっかり見落とす所だった。殆



ど並んで「小島本陣」がある。

「延台寺」には、曾我兄弟仇討ちで、曾我十郎の身代りになった「虎御石」がある。又 R1 を東に向かう。「三沢橋」の向こうで、左旧道となる。杉並木の中に「江戸見付跡」の案内板があり、ここで「大磯宿」が終わる。少し登り道、道にしなだれかかった松の木も見られ、倒れはしないかと気になる。

先方 JR の薄暗い地下道をくぐり、両側杉並木道を進む「化粧坂の一里塚跡」？（写真右）落ち着いた住宅群の前に「虎御前の化粧井戸」があり、その先 化粧坂交差点で R1 に入る。



古びた町の間を進み、花水橋を渡ると、平塚の町である。振り返れば高くはないが高麗山（コヤマ）が見える。古花水橋の交差点に「京方見付の跡」碑があり、これよ

り「平塚宿」となる。高麗山に陽が沈みつつある。

平塚宿(7)



ここ「平塚宿」は、本陣1軒・脇本陣1軒・問屋場2軒・旅籠は54軒ではあるが、市民プラザ前近くの「江戸方見付」(写真左)迄と短い宿場である。街並みは、空襲や区画整理により、その面影は留めていないが、資料等により復元されたものである。



R1 を少し進み、右折すると目的の街道である。途中「平塚の塚」の案内板があり、立ち寄ると、平塚の由来が示されている。それは字の如く平たい塚との事・・・期待外れ？



旧道は、平塚銀行前で、街道に合流し、大きな交差点を挟んで、「本陣跡」(写真中 天保年間の本陣は総ケヤキ造りで、建坪163坪、座敷数が20もあり、門は乗馬したまま出入りしたらしい)・「問屋場跡」・「脇本陣跡」等が立ち並んでいた。市民プラザ前の、大きな交差点の近辺に「江戸方見付跡」(写真右)の案内板と、短い「見附石垣」が保存されている。ここが東の外れとなっていた。時間は16:00 もう少し先に進むと遅くなる。結構歩いた! この辺で上りとするか!

お着き江戸見付跡

午後4時過ぎ「江戸見付跡」で考えた。先に進むも一案なれど、ここで上がるも方策だ! 昔は早々に、旅籠にチェックインし、次の日に備える。頑張った! もう帰ろう!

近くのJR平塚の駅から、電車で小田原へ 城近くのホテルに入る。まだ 明るさが残っているが、朝からの歩き、ゆっくりしよう。 美味しいものを食べたいと、町に繰り出すが、好みの違いがあり、纏まらない間に、昨日のすし屋に(鍋が食べたいと言いながら?)・・・付いてはいけない。別行動とするか! 今度は若い美人?の呼び込みに釣られて、高価な店に・・・色々あったが、結局 蕎麦屋で、蕎麦と井(1400円)になっちゃった。栄養学的には、どうかと思うが、腹は満腹ホテルに帰る。今日は 全員に個室が割り当てられた。

(3日目) 4月6日(日) 曇り一時雨

江戸見付跡 → 馬入一里塚 → 左富士の碑 → 茅ヶ崎一里塚 → 茅ヶ崎一里塚

距離 6.80km (今日の歩行距離 17390歩 * 65cm = 11.30km)

良く寝た。早々に目覚めた。ホテルは素泊まり・・・又 吉野家の朝定食を食べる。今度は帰り支度をし、車でホテルを出立 時は8:00 平塚 江戸見付近辺の駐車場に車を預ける。

御発ち江戸見付

東海道を歩き始める 8:45 天気予報では、良く持って半日との事、今日の歩きは、そんなに多

くない。江戸見付からは、真直ぐ東に、周辺の街並みや、右手の平塚駅前商店街を見ると、とても宿場のはずれだったとは思われない。

馬入一里塚跡

やがて「馬入交差点」で、R1に遭遇する。この手前に「馬入一里塚跡」(写真左)の碑と説明板が、道の右側にあり、ここから馬入(相模)川を越える。現在は馬入橋を渡りますが、江戸時代は、もう少し上流に「馬入の渡し」(船渡し)があり、「ふれあい公園」に、その碑が残っています。道の左側に「サンライフガーデン」ホテルがあり、脇には、「明治天皇が巡幸の際に休息」と記された碑があった。

街道から外れた、ホテルの裏手に、スコットランドより移設したと言われる、ビクトリア朝時代の教会(写真中)が、不釣り合いな雰囲気留着しています。



今宿の信号で道の右側に移らなかったため、R1を無理やり横断、河川公園へ。「河川公園」には、鎌倉時代の橋脚である木柱を、現場保存・公開(写真右)されています。勿論表面処理はされ、劣化しないように対処されています。関東大震災と、その翌年の余震で、現れたらしく、杭は川の流れて押されてか、皆同一方向に傾いていました。橋桁が乗っている時代からなのか、それは不明です。開店直後のニトリで、トイレを済ませ、又歩き始める。

左富士の碑

道は大きくカーブしその突き当りに「左富士の碑」がある。江戸からはすべてお山は右側だが、道が大きくカーブすることにより、左側になるのです。(吉原宿でも同じ状況がありました)振り返って眺めるが、周辺の建物か、曇り空か・・・ともかく富士山は見えなかった。左手に「鶴嶺八幡宮」があり、参拝すべく向かったが、奥が深いのでやめた。またR1にもどり、少ない松並木の下を東に向かう。

茅ヶ崎一里塚

東に向かうが、地名が「十間坂」平道だ、昔は坂道だったのか?左手に「第六天神社」を見ながら進むと、右にJR茅ヶ崎駅に向かう広い通りと交差し、その先すぐに「茅ヶ崎一里塚」に出会う。塚は片方だけが、復元され道標になっている。



お着き茅ヶ崎一里塚

時間は11:00過ぎ、まだ早い。もう少し歩けるとの、不満を聞きながら、ここで切り上げる。

すぐにJRで平塚へ引き返し、駐車場に戻り、土産も買わずに、車中の人となる。11:30厚木道路に入ると、ぽつぽつと落ちてきた。厚木より東名・新東名に乗るころには、曇交じりとなる。

新静岡SAで遅い昼食を取り、若干の土産を仕入れ、又西に向かう。東名に乗るころには晴れてきた。渋滞にも遭わず、御在所SAでトイレ休憩し、PM7:00には、松井山手に帰ってきた。路銀を清算し、家路につく。

藤井君安全運転ありがとう!今年の桜は、結構長持ちしている。新島裏終焉の地で、「八重の桜」は見なかった(あれは会津だ)が、行く先々で桜を楽しむ事が出来たのは幸い。おわり

“お江戸日本橋へ”

平成 26 年 4 月 4 日から 6 日
第 27 回 三枚橋より 小田原宿・大磯宿から平塚宿へ 藤沢まで行けるかな！

- 三枚橋 → 4.8 km → 小田原宿 (9) → 17.2 km → 大磯宿 (8) → 2.4 km
- 平塚宿 (7) → 7.2 km → 茅ヶ崎一里塚 → 6.8 km → 藤沢宿 (6)

